



今月のテーマ
新年のご挨拶

〒100-0001 東京都千代田区千代田2-5-0-3
TEL:0243-22-6688

予防接種専用の時間
毎週水曜日を除く午後1:30~2:00
1月17日(土曜日)は医師会の総会の
ため、2時30分までで診療終了します。

あけましておめでとうございます
お正月、いかがお過ごしでしょうか
今年もよろしくお願ひ致します。
お正月早々暗い話になってしま
いますが、昨年来医療を取り巻く情
勢は、皆様にとっても、我々医療機
関にとっても厳しくなる一方です。保険財
政の破綻がその引き金になってい
ますが、破綻するべくして破綻したといえる現行の社
会保険制度が根本的に改善され
ない限り、この問題は解決され
ません。問題の先送りのな表面
上の改革におわらないことを望
みたいと思います。

ところで、昨年暮れのポケモン騒動ですが
幸い福島県は放送内容が遅れていたよう
で被害に遭われた方はごく一部の東京圏の
テレビを見ていた方だけだったよう
です。マスコミなどの報道です
で「生存」の方も多いかと思
いますが、この問題に関する情
報を簡単に「ラム欄」で紹介
致します。放送する側でも今
まで以上に気をつけると思
いますが、いつ皆さんの子供
さんがそのようなトラブルに
巻き込まれないとも限りませ
んので、是非一読をおすすめ
致します。また、香港で発生
した新型インフルエンザも患
者さんの数が増えて来てお
り、一部の報道では新春にも
日本に上陸、もし上陸すれば
3,000万人が罹患し、3万人
が死亡するのではないか
とか。しかしこれは公式の見
解ではありません。しかし、
ワクチンの供給には最低
4ヶ月が必要といわれてお
り、この先香港で感染者が

増え、ヒトからヒトへの感染
が証明されると一気に危
機感が高まります。この新
種のウイルスの型はH5N1
で、今まで日本では確認さ
れていません。当然だれも
していません。免疫を持って
いる人は少ないわけではな
い。参考までに厚生省の
発表しているこの新型イン
フルエンザに関するQ&Aの一
部を「ラム欄」に掲載しま
す。インフルエンザの予防に
関して一般的にいわれてい
る注意点は、過労や睡眠不
足をさける。十分な栄養と
休養をとる。うがい、手洗
いを励行する。人混みをさ
ける。マスクを着用する。と
いった事ですが、これも決
定的な対策とは言えませ
んが、気は

心、励行したいものだと思
います。この他、インフル
エンザウイルスは一般的に
湿度を嫌いますので、十分
な加湿が効果的です。マ
スコミの報道は、この厚
生省の発表などを元に
している訳ですが、記事
の書き方により、受け
取る側に違った印象を
与える可能性があります。
最近インターネットによ
り簡単に誰でも厚生省
の発表そのものを見るこ
とができます。是非ご自
身で、実際の発表内容
を確認する事をおすす
めします。情報内容の中
でいきる我々は、情報に
踊らされることなくそれ
をうまく活用していくこ
とが大切です。なお、こ
の厚生省の情報は12月
23日にアクセスして得
られたものです。その後
更新されている可能性
があることをお断り致
します。

このころ、えつと驚くよ
うなニュースばかり慣
れつこになつてしま
いそうなくらいです。今
年は、そんな暗いニュー
スが少ない年であつて
ほしいと思います。



心、励行したいものだと思
います。この他、インフル
エンザウイルスは一般的に
湿度を嫌いますので、十分
な加湿が効果的です。マ
スコミの報道は、この厚
生省の発表などを元に
している訳ですが、記事
の書き方により、受け
取る側に違った印象を
与える可能性があります。
最近インターネットによ
り簡単に誰でも厚生省
の発表そのものを見るこ
とができます。是非ご自
身で、実際の発表内容
を確認する事をおすす
めします。情報内容の中
でいきる我々は、情報に
踊らされることなくそれ
をうまく活用していくこ
とが大切です。なお、こ
の厚生省の情報は12月
23日にアクセスして得
られたものです。その後
更新されている可能性
があることをお断り致
します。

テレビ番組視聴による健康被害への対応について(厚生省)

今回発生した事例について、詳細は調査してみなければ不明であるが、次のようなものが考えられる。1) 光感受性発作の場合：光感受性発作は、画面のちらつき、図形の変化、反復する閃光などの刺激によって誘発される発作であり、全身のけいれん発作などの症状を呈するものである。2) その他の場合：閃光刺激、素速く動く色模様、強烈な図形反転などのスクリーン映像を長時間にわたって凝視していると、眩暈、嘔気、冷汗、動悸などの徴候を自覚する事がある。これらの徴候・症状は急に起始し、数分の間に消退するものであれば、必ずしもてんかん発作ではない。

「参考」 光感受性発作について
概要：1970年にテレビ視聴中に発作を起こす患者が増加しているという報告が紹介されたのを契機として、1981年にはテレビゲームによって誘発された可能性のある発作症例が散発的に英米の医学誌に報告されるようになった。我が国においては、1987年にてんかん学会において発作症例が報告されている。閃光や光の点滅で発作が起こるものを光感受性発作と呼び、発作誘因として画面のちらつき、図形の変化といった光の感受性の異常、図画面上の物体を追う眼球の動きなどが考えられている。閃光刺激周波数は、15ないし20ヘルツにある。刺激から発作までの潜伏時間は短く、スクリーン注視後にまもなく発作が起こることが多い。発生頻度：4000人に1人の割合とされる。女性で多く、幼児、学童期が好発年齢とされる。診断：脳波検査が不可欠であり、反復閃光刺激などの手段によって脳波上光感受性発作をとらえることが必要である。予防手段：テレビ画面から十分な距離をとる、部屋を明るくするなどの方法がある。治療：発作を繰り返すような場合には、抗てんかん薬の服用が必要となる。予後：良好なことが多く、日常生活上の注意を守り、定期的な脳波検査を施行することで、再発を予防することができる。

